

学術部おすすめ！読んでおきたい特集記事

デンタルダイヤモンド／2017. 01月号（中島副委員長 記）

○新春スペシャル・フォーラム“摂食嚥下障害へのアプローチ ～キーワードは咀嚼です～”

（松尾浩一郎・本田正明・小谷泰子）

＊超高齢社会を迎え、摂食嚥下障害に苦しむ患者さんは増加の一途です。この特集では摂食嚥下障害を①食べ物を臼歯に送る時期 ②咀嚼運動期 ③食塊を口腔から咽頭へ送る時期 ④嚥下期 の4つに分けて考えて、嚥下だけでなく咀嚼＋送り込みを考えなくてはいいとしています。また、胃を全摘した本田先生が患者体験でわかったことを、小谷先生は摂食嚥下障害のリハビリテーションの「食べ物を使わない間接訓練」と「食べ物を使う直接訓練」などについて記載し、咀嚼が重要な要素を占めるため医科歯科連携が必要で、日本の高齢化社会に適した歯科医療が必要としています。歯科の重要性がわかります。

○Dd 歯科⇄皮膚科連携セミナー 金属アレルギーと病巣感染（押村 進）

＊掌蹠膿疱症や金属アレルギーを疑って歯科医院に来院する患者さんが増えています。しかし、歯科金属パッチテストを実施しても陰性反応であったり、陽性反応を示した金属を除去しても皮膚症状が改善しない症例があるとの報告もあります。この特集では、歯性病巣が関与している皮膚疾患や歯科・皮膚科の双方から審査・診断が必要な症例や皮膚科との連携方法について解説しています。是非、ご一読ください。

歯界展望／2017. 01月号（小野委員長 記）

今回、歯界展望1月号の中で、諸先生方に紹介するのは「特集」、「新春座談会」、「特別寄稿」のいずれでもない。「研究調査」と題されたわずか3ページの文章です。

○脱臼した歯は卵白につけて 歯科医院に持ってゆく（大阪歯科大学歯科麻酔学講座 佐久間 泰司）

＊校医をされている先生はそれぞれの学校で、外傷歯が脱離した場合児童、生徒また養護教諭にどう対応するように指導されていますか？最近では牛乳にいれて持って来ることが一般市民のかたにも浸透してきたように感じていました。ところが昨年、日本蘇生協議会から表題のような一般市民向けガイドラインが発表されたそうです。救急蘇生の現場では世界的に有名なガイドラインで、「外傷で歯が脱臼した場合、歯科医による再植を最優先するが、直ちに再植できない場合は一時的に卵白で保存する。それができない場合牛乳を使用する。また患者に卵アレルギーがあれば使用しない。」という物です。更に「歯の外傷は10歳未満に多く発生しているので、小学生に積極的に教えることが学校歯科医の役割であろう。」としています。しかし卵白のエビデンスは、充分にはないようです。外傷と言う性質上、卵白と牛乳を使用した同一歯牙での比較した臨床研究ができません。それぞれの中に保存した歯根膜細胞の生存率の比較から検証しているようです。ぜひ読んで見て下さい。

ザ・クインテッセンス／2017. 1月号（岡崎副委員長 記）

○認知症高齢者に対する歯科医療のあり方を考える（服部佳功）

＊認知症は、平成25年に要介護原因の第2位となった。地域包括支援システムの構築が急がれる中、歯科医療者の認知症対応力向上は避けて通れない。その理由は、①低栄養が認知症の発症や進行を促すことから、栄養の維持改善に寄与できる。②歯磨き拒否、うがい失行など整容行為の障害をとまなうので、継続的な口腔衛生の維持が望まれる。③認知症は進行性の病態で、アルツハイマー病の推定診断後の生命予後は60～70代でも7～10年であるといわれるので、継続的管理を行うべきである。そのためには①認知症患者向けの接遇技術の習得。②非言語的疼痛行動の観察など、認知症患者を理解する手段の習得。③歯科治療の予知性が低く、患者の主観的意思が確認できないため、親族の代諾などを含む意思決定の手続きを定めておくことなど意思決定プロセスの定式化が必要である。

○オーラルフレイル われわれは何をすべきか？（阿部伸一 飯島勝矢）

＊本文より。「頑張ったら何か一歩前向きにできた」という伸びしろ、可逆性のある時期を「フレイル」と言いたい。コミュニケーションのための会話や表情を作ることが、食物を摂取、咀嚼、嚥下する筋群を鍛えていることになるのです。「オーラルフレイル」の概念を提唱した目的は、国民のお口に対する健康リテラシーを高めることです。食事中にちょっとむせたときに、奥さんが「あなた、味噌汁でむせちゃって、オラフレじゃないの？」なんて会話が生まれ「じゃあ、歯科医院に行かないとだめかなあ」と行動に移させることが僕の狙いなんです。歯科医院でも、いきなり口腔内を見るのではなく「おばあちゃん、お肉食べてる？家族や友達と一緒に食事をしているの？」医師も「お肉は食べないとだめだよ。そのためには歯を治さないと。かかりつけの歯医者さんはいるの？」そして国民が「しっかり噛んで食べる」という原点を軽く見てしまっている現状をどうにかしたい。国民運動論にすることが大切だと思っています。

歯科評論／2017. 1月号（居樹副委員長 記）

○特集／CAD/CAM コンポジットレジン冠—保険導入のその後（末瀬一彦 岩田卓也 他）

＊CAD/CAM冠が保険導入されて2年以上経過しました。現在では導入直後にくらべて皆さんのレジンブロックも発売され、徐々に浸透してきた感があります。しかし一方ではCAD/CAM冠の破折や脱離といったトラブルも言われてきています。この新技術を着実にするための5つのポイントを、それぞれの分野のエキスパートの先生方が詳しく解説しています。さっそく明日からの臨床に役立ててください。

○新連載／治癒に導くエンドの秘訣—最新エンド症例集(1)

歯根吸収を伴う歯内—歯周疾患への対応（木ノ本喜史）

＊「治癒に導くエンドの秘訣—最新エンド症例集」というタイトルで新連載が始まりました。診断および処置の経過を写真とレントゲンで詳しく記していく企画のようです。第1回目は歯根吸収を伴う歯内—歯周疾患への対応。筆者の木ノ本先生はどう対応して治癒に導いたのか。日常の臨床で時々遭遇するケースです。是非参考にしてください。